

大会注意事項(学童)

- ① 監督1名、コーチ2名以内、選手は10名以上25名以内。ただし、監督、コーチは成人者（20歳以上）でなければならない。
- ② 大会でベンチに入れる人員は、登録されユニホームを着用した監督、コーチ、選手及びユニホームを着用しないチーム代表者（引率責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）の各1名とする。熱中症対策として、保護者2名以内をベンチに入れることができる。
- ③ ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
- ④ 打順表の提出は、当該試合の開始予定時刻の30分前（トス前）までに、監督が本部に提出し照合を受ける事。照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。またその際に資格保持者は資格証を本部へ持参すること。打順表の記入は、参加申込書に記載された監督・コーチ及び選手を必ずフルネームで記入すること。
- ⑤ 攻守（トス）は当該試合の30分前に球審または役員立会いのもと、両チームの主将により攻守を決定する。
※攻守（トス）時の参加者、監督・主将
- ⑥ ベンチ内での電子機器（携帯電話・パソコン等）及び携帯マイクの使用を禁止する。但し、スコアラーの電子スコア記録用として1台の使用を認める。メガホンは1個に限り使用を認める。
- ⑦ 試合は6回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らないこととする。ただし、決勝は1時間40分とする。正式試合の成立は4回完了時とするが、4回以前でも規定時間に達したならば、試合は成立する。6回を完了時又は制限時間を過ぎて同点の場合は、延長戦は行わず、タイブレーク方式を行う。無死1・2塁、継続打順で最大2イニングまで行い、勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決する。ただし、決勝戦にかぎり抽選を行わず勝敗が決するまでタイブレークを続ける。得点差によるコールドゲームはすべての試合において3回終了時15点差、4回10点差、5回以降7点差とする。
- ⑧ 抗議のできる者は、監督か当該プレーヤーのいずれか1名とする。
- ⑨ 監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。監督が、1試合に投手のところに行ける回数は3回とする。なお、特別延長戦は1イニングに1回行くことができる。攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。なお、特別延長戦となった場合は、1イニングに1回とする。捕手を含む内野手が1試合に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。なお、特別延長戦となった場合は1イニングに1回行くことができる。
- ⑩ 監督不在でも試合は認めるが、代理の場合は、登録されたコーチが「代理」と必ず打順表に明記すること。
- ⑪ DH制の導入は行わない。
- ⑫ 投球数70球以内の投手が他の守備位置についた場合、再登板を認める。
- ⑬ 金属・ハイコン（複合）バットはJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認ものに限る。但し、一般用FEP製バットを使用することを禁止する。
- ⑭ 1. 投手のサングラス使用を認める。ただし、ミラーレンズは除く。
2. 野手がサングラスを庇の上に乗せることを認める。
3. 後付けフレアグリップ使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。
- ⑮ スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。なお、運動靴でもよいこととする。
- ⑯ 打者、次打者、走者は両側にイヤーフラップのついたSGマークの入った連盟公認のヘルメットを着用すること。なお、ベースコーチも着用すること。フェースガード（顎ガード）付ヘルメットの使用も可能。但し、後付けガードの物は使用できない。
- ⑰ 監督、コーチ、選手は全員同色、同形、同意匠のユニホーム、帽子、同色のアンダーシャツ、同形同色のストッキングでなければならない。ただし、合同チームの場合はこの限りではない。また、アームスリーブの使用は可能。投手のみアンダーシャツと同色で両袖とする。
- ⑱ 投手の「12秒及び20秒ルール」は採用しないが、準決勝及び決勝のみ計測を行い該当時には注意を与える。また、合わせて準決勝・決勝では用具確認（チェック）も実施する。
- ⑲ 打者は速やかにバッタースボックスに入ること。なお、サインはバッタースボックス内で見ること。また、次打者は必ず次打者席に入ること。投手も必ずプレートに足をつけてサインを見ること。
- ⑳ 守備の時間が長い場合（概ね20分）には健康維持を考慮し、審判の判断で給水タイムを設けることとする。（試合時間に入れない）
- ㉑ 詳細の運営規則・競技規則は、当連盟発行の「競技運営に関する規則」「大会特別規則」「審判長注意事項」による。